

活動状況



筑波大学

University of Tsukuba

平成20年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム事業の活動状況

年 月 日	取 組 内 容
平成20年4月9日	情報学群現代GP 講義・演習説明会を 春日地区で 創成学類2年次オリエンテーション時に実施 (参加人員:約60名)
平成20年4月14日 ~ 6月23日	講義「コンテンツ制作と権利管理」を 実施(全10回) (受講者:96名)
平成20年4月16日	情報学群現代GP 講義・演習説明会を 体芸地区で 開催 (参加人員:26名)
平成20年4月18日	情報学群現代GP 講義・演習説明会を 中央図書館で 開催 (参加人員:11名)
平成20年4月24日	情報学群現代GP 講義・演習説明会を 春日地区で 開催 (参加人員:10名)
平成20年5月26日	講義受講者を対象とした 演習説明会を 第3地区で 開催 (参加人員:25名)
平成20年6月3日	講義受講者を対象とした 演習説明会を 春日地区で 開催 (参加人員:26名)
平成20年6月4日	芸術系の学生および院生を対象とした 演習説明会を 体芸地区で 開催 (参加人員:22名)
平成20年7月7日 ~ 7月28日	演習「理解と創発を生む、デジタルコンテンツの開発」を 実施 〈担当教員:西岡 貞一, 金 尚泰〉
平成20年7月8日 ~ 7月29日	演習「ロボットを用いたモーションコンテンツ」を 実施 〈担当教員:三河 正彦〉
平成20年7月11日 ~ 7月16日	演習「仮想立体のデザインと実体化」を 実施 〈担当教員:三谷 純〉
平成20年7月23日~ 7月30日	演習「電子作品の制作とインターネット個展の開設」を 実施 〈担当教員:滝沢 穂高〉
平成20年7月30日	台湾国立中央大学等の 教員(5名)および 大学院生(5名)が 来学し 現代GPに関し 意見交換
平成20年9月6日~ 9月27日	演習「インタラクティブデジタルフォトフレームのデザインと開発」を 実施 〈担当教員:井上 智雄〉
平成20年9月6日~ 11月1日	演習「マンガポータル・マンガモール」を 実施 〈担当教員:杉本 重雄〉
平成20年9月17日	H20年度 第1回 啓発セミナーを 5C棟(体芸)で 実施 (参加人員:約90名)
平成20年10月1日~	演習「サイエンスコミュニケーションのためのコンテンツ試作」を 実施中 〈担当教員:逸村 裕, 三波 千穂美〉
平成20年10月14日	H20年度 第1回 運営会議 開催
平成20年10月	英語版 Webページの 拡充
平成21年1月29日	H20年度 第2回 啓発セミナーを 情報メディアユニオン(春日地区)で 開催 (参加人員:約110名)
平成21年2月27日~ 3月8日	演習「地域映像資料デジタルアーカイブ」を 実施 〈担当教員:鈴木 誠一郎〉
平成21年3月23日	H20年度 第2回 運営会議 ・ H20年度 評価委員会 開催

台湾からの視察団

2008年7月30日、台湾からの視察団を迎えた。国立中央大学、国立清華大学、国立交通大学、国立台湾師範大学、の各大学より教授5名と各大学院生5名の総勢10名であった。本視察団は、昨年1月に本現代GPの演習担当者である井上准教授が台湾を調査訪問したことに対応して実現したものである。当日、視察団は、午前11時より、取組責任者である杉本教授らより、本現代GPの概要説明を受けた。午後には、図書館情報メディア研究科のいくつかの研究室から研究紹介を受けた。また、ちょうど実施中だった現代GPの演習トラックも見ることができた。その後、午後3時頃より、事業推進責任者である海老原教授の挨拶もあり、杉本教授、井上准教授らとの間で、国際間協調学習演習の計画などについて、活発な議論が行われた。特に、研究紹介ではそのレベルに高い関心を持って評価し、多くの写真を撮っていたことが印象的だった。



京都精華大学との連携

本現代GPでは、京都精華大学との連携を当初から計画しており、本年度はそれに基づきいくつかの試みを行った。

(1) 講義「コンテンツ制作と権利管理」

京都精華大学と筑波大学では学期制が異なり、講義時間帯も異なるために、インターネットを介したリアルタイムの遠隔講義を行うことはできなかった。そこで、本年度は、筑波大学での講義内容を録画し、それを京都精華大学における講義の中から適切なものを選び、その一部として利用することで合意して、講義での連携を図ることにした。録画による受講であるため、講師との対話性がなく臨場感に乏しいといった問題はあったが、その一方、コンテンツから権利管理までをひとまとめにした講義に対する評価は得られた。

(2) コンテンツ開発演習に関わる連携

筑波大学でのマンガポータル・マンガモール演習トラックに関して、京都精華大学および京都国際マンガミュージアムとの間で、いくつかの連携的取組を試行した。この場合も講義と同様に、両大学での学期制の違い等のために同期することが難しく、双方の学生チームの間で情報交換できる仕組みを作ることにした。筑波大学側では、演習トラックでWikiサイトを立ち上げ、演習ト

ラックの各グループが、途中経過や成果物を載せることにし、この Wiki を京都精華大学側でもアクセスできるようにした。また、演習トラックでの作品の発表会を開き、その際に京都精華大学の西田准教授（本現代 GP 評価委員）を招き、講評をお願いした。学生が直接マンガの専門家と交換できる機会として貴重であったと考えている。

(3) 啓発セミナーに関して

平成21年1月29日（木）に開催した啓発セミナーでは、マンガをテーマに講演を行うことにし、京都精華大学に助言をお願いし、マンガの専門家を招いてセミナーを実行した。本セミナーでは、現在のマンガのビジネスの変化、ネットワークや携帯電話による配信ビジネスなど、コンテンツビジネスの新しい話題も含めた講演がなされ、参加者には、非常に新鮮かつ将来を志向した話題が提供された。